

研究していること

古英語(700年~1100年)で書かれた詩を研究しています。特に8世紀中頃の英雄叙事詩である『ベオウルフ』(*Beowulf*)という古英詩を中心に、写本に残されているこの作品が、これまでどのような校訂を受けて読み込まれてきたか、オリジナルの読みはどうであったのかなどを考えながら、19世紀初頭から現代までに出版されてきた校訂本における本文校訂の歴史を追っています。古英語に触れた時、現代英語との発音が著しく異なることを知り、古英詩の響きに魅せられました。また古英詩に見られる、語彙、リズム、表現法の面白さにも惹かれました。その古英語を出発として、英語が現代までどのような変化を遂げてきたのかという「英語の歴史」にも興味を持っています。さらにもう一つ、「中世イギリスの写本文化」にも面白さを感じています。現代のデジタルの文化と異なる手書きの文化である写本の世界を探ることにより、本という概念とその形態自体がどのように変容してきたか見ることを研究の対象としています。

皆さんへの推薦書

・ジェフリー・チョーサー (梶井迪夫訳)『完訳 カンタベリー物語 (上)・(中)・(下)』

(岩波文庫)

「英詩の父」と言われるチョーサーの物語詩です。中世イングランドの多様な階層の人たちが登場し、人間模様を繰り広げる内容です。「聖と俗」の語り展開されますが、現実の全てを包み込むチョーサーのおおらかさを感じられます。

- ・トマス・マロリー (厨川文夫・圭子編訳)『アーサー王の死』(ちくま文庫)
円卓の騎士団を中心にした冒険談が集大成された、中世のアーサー王伝説集です。アーサー王の名剣エクスカリバーや、武勲名高い騎士ランスロットらが勇躍する物語です。この伝説の騎士物語は、以降の文学・文化に多大な影響を与えています。
- ・*Longman Dictionary of Contemporary English* (Longman, 2014, 6th ed.)
皆さんにとって、英語を学ぶ上でリファレンスとしての辞書は大切です。ロングマン社から出ている英英辞典をお勧めします。語義は平明な英語で提示され、良い例文が提示されています。英語の力をつけるには、この辞書を徹底的に読み込むことをされるとよいと思います。辞書は先ず、紙媒体のものを用意しておきましょう。電子辞書にも入っています。ちなみにオンライン版は(<https://www.ldoceonline.com/>)から参照できます。

好きなこと

中央線沿線の町並みの中を散策し、そこの古本屋に立ち寄ったあと喫茶店に入ること。郊外を散策すること。溪流釣りをしながら自然の中に溶け込むこと。1960年代、'70年代のアメリカンポップスと日本のフォークソングを聞くこと。アイリッシュの音楽にも興味があります。アコースティックギターもちょっと弾きます。

皆さんへ

情熱を爆発させてでもいいし、深く静かにでもいい。何でも思いっきり取り組んでください。